

ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPYファンド(毎月分配型)

# スペシャルレポート

※当レポートは、当ファンドの実質的な運用を行うブラックストーンの情報を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。

2025年8月8日

平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

主に米国企業への直接融資を行う非上場プライベート・クレジット・ファンドを主たる投資対象とする国内籍公募投資信託として、2025年6月30日に「ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPYファンド(毎月分配型)」(以下、当ファンド)が設定されました。本資料では、当ファンドの設定来の運用実績や、プライベート・クレジット投資の魅力、加えて、当ファンドの実質的な運用者であるブラックストーンのプライベート・クレジット戦略の特徴である大型優良企業への融資について、そのメリットや案件事例をご紹介します。

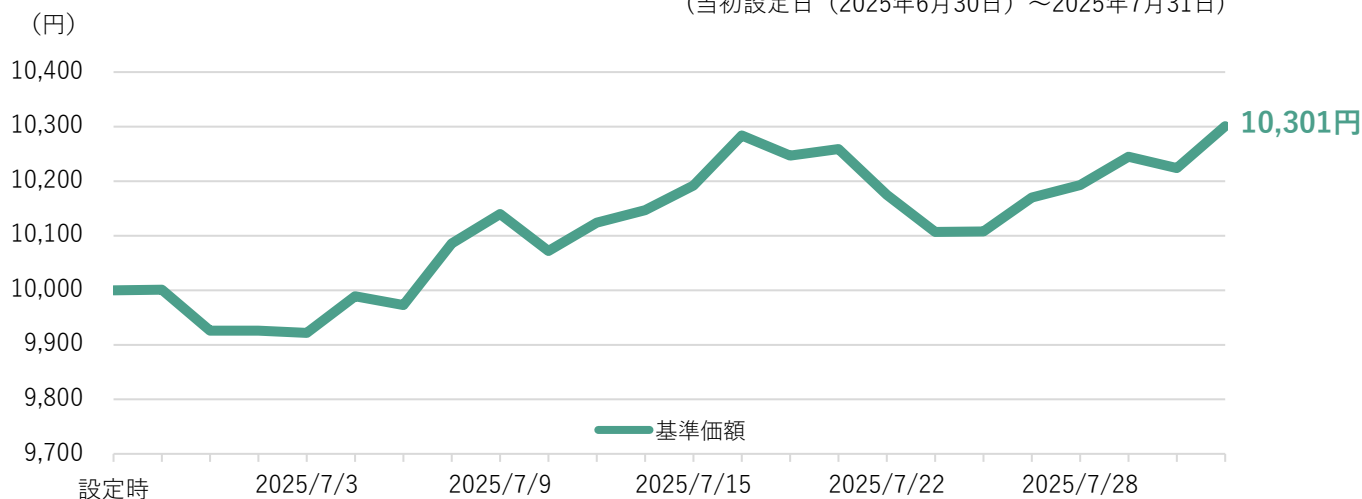
純資産総額：  
(2025年7月31日)

57 億円

基準価額：10,301 円  
(2025年7月31日)

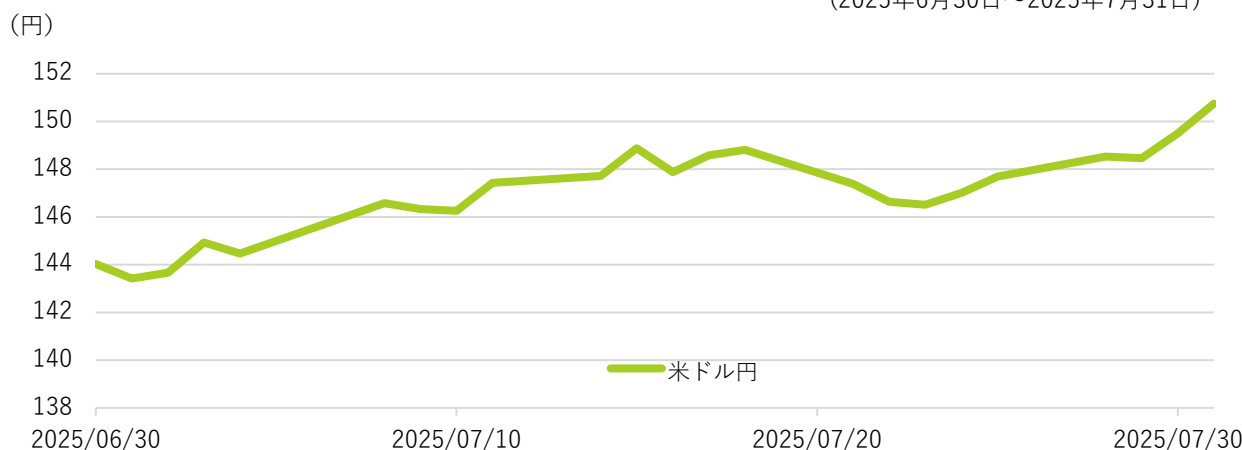
## 当ファンドの基準価額の推移

(当初設定日(2025年6月30日)～2025年7月31日)



## 米ドル円の推移

(2025年6月30日～2025年7月31日)



※純資産総額、基準価額は「ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPYファンド(毎月分配型)」の実績です(運用報酬・費用等控除後)。  
2025年7月31日時点で、分配金は支払われていません。

※上記は過去の実績を示すものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

(出所) ブルームバーグ

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

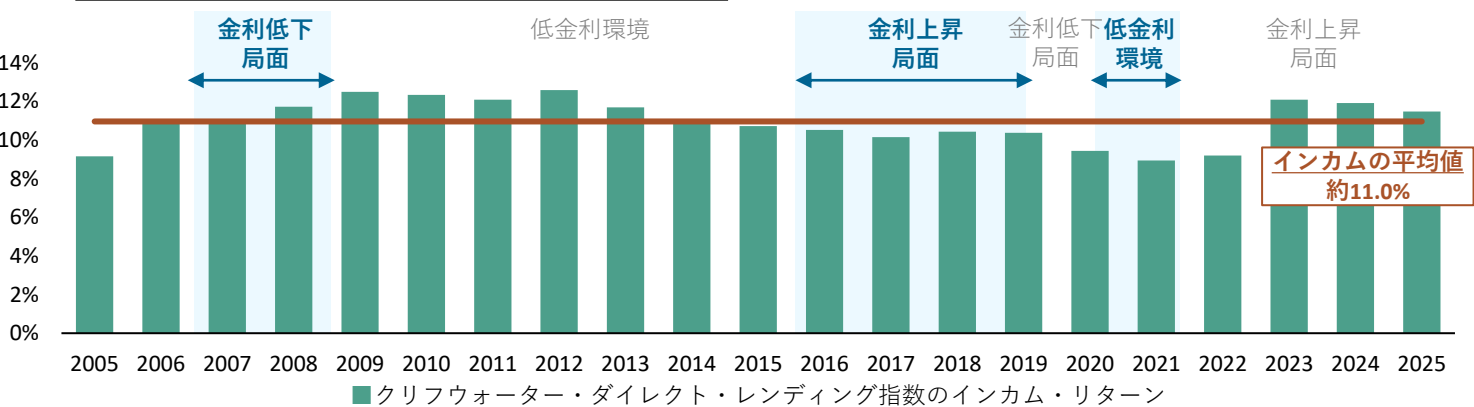
※後述の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

プライベート・クレジット投資の魅力

ポイント① プライベート・クレジットは様々な金利環境下で安定したインカムを創出

- プライベート・クレジットは過去20年超の様々な景気サイクルに関わらず、平均約11%<sup>(1)</sup>の魅力的なインカムを創出してきました。
- 通常、市場の金利水準に応じて定期的にインカム水準が見直される変動金利の融資が中心となっているため、金利変動リスクの抑制が期待されます。金利上昇局面では、基準金利の変動に伴い高いインカム収入の獲得が見込まれ、一方で金利低下局面でも、多くの場合において下限金利が設定されていることから、金利低下局面においてもインカム収入の低下に対する一定の耐久性が期待されます。

プライベート・クレジットのインカム・リターン <sup>(1)</sup>



ポイント② 伝統的な債券資産と比較し、様々な市場環境で優れたパフォーマンスを記録

- プライベート・クレジットは長期に亘り、ハイ・イールド債やバンク・ローン等の伝統的な債券資産のパフォーマンスを上回ってきました。
- その一因としては、機動性や情報の機密性、柔軟性といった資金調達手段としてのプライベート・クレジットのメリットへの対価として、資金の借り手が支払うプレミアム（追加的な利回り）が挙げられます。更に、返済順位が相対的に高い優先担保付融資が中心となるプライベート・クレジットは高い資産の保全性が期待されること、また、上述のとおり変動金利建ての融資から得られる魅力的なインカム収入等も挙げられます。

主要債券指数の年間リターンおよびパフォーマンス・ランキング（2016年～2024年）<sup>(2)</sup>

| 2016  | 2017 | 2018  | 2019  | 2020 | 2021  | 2022   | 2023  | 2024  | トータル・リターン <sup>(3)</sup> |
|-------|------|-------|-------|------|-------|--------|-------|-------|--------------------------|
| 17.1% | 8.6% | 8.1%  | 14.3% | 7.5% | 12.8% | 6.3%   | 13.4% | 11.3% | 9.4%                     |
| 11.2% | 7.5% | 1.8%  | 9.0%  | 7.1% | 5.3%  | 1.5%   | 13.3% | 9.0%  | 6.3%                     |
| 10.2% | 4.1% | 1.4%  | 8.7%  | 5.8% | 5.2%  | -0.8%  | 12.1% | 8.2%  | 5.8%                     |
| 2.6%  | 3.5% | 0.4%  | 8.6%  | 5.5% | 0.0%  | -7.8%  | 5.5%  | 5.3%  | 1.9%                     |
| 1.1%  | 1.1% | 0.0%  | 5.2%  | 3.1% | -1.5% | -11.2% | 5.1%  | 2.4%  | 1.4%                     |
| 0.3%  | 0.8% | -2.1% | 2.2%  | 0.5% | -1.7% | -13.0% | 4.3%  | 1.3%  | 1.2%                     |

■ プライベート・クレジット ■ 1-3ヶ月短期国債 ■ 米国中期国債 ■ 投資適格債 ■ バンク・ローン ■ ハイ・イールド債

※プライベート・クレジットへの投資は、一般的にファンドを通じて行います。通常、ファンドは借入れによりファンド純資産を上回る額の融資を行う場合があること、流動性管理等のため、プライベート・クレジット以外の資産にも投資を行う可能性があるなどの理由により、プライベート・クレジットに直接投資を行う場合に比べ、リスク（価格変動率）が大きくなる傾向があります。また借入コスト、ファンドの運用報酬などの追加的なコストは、投資家にとってリターンの低下要因となります。上記の指数は、ファンドによる借入れや追加的なコストを考慮していない指数であるため、実際のファンドの値動きとは異なります。

(1) 2025年は1-3月期のデータ。2025年3月31日時点の入手可能な最新のデータに基づきます。各暦年のインカム・リターンを示しています。(2) 2024年12月31日時点。各暦年の年間リターンをパフォーマンスの高い順に示しています。この記載の資産クラスは、以下の指数に基づきます。プライベート・クレジットはクリフウォーター・ダイレクト・レンディング指数、ハイ・イールド債はブルームバーグ米国ハイ・イールド社債指数、投資適格債はブルームバーグ米国総合債券指数、バンク・ローンはモーニングスターLSTA米国レバレッジド・ローン指数、米国中期国債はブルームバーグ米国中期国債指数、1-3カ月短期国債はブルームバーグ米国財務省証券1-3カ月指数。(3) トータル・リターンは、2016年1月1日～2024年12月31日の期間について計算し年率換算しています。

(出所) クリフウォーター、モーニングスター、ブルームバーグ、ブラックストーンからの情報を基に大和アセットマネジメント作成

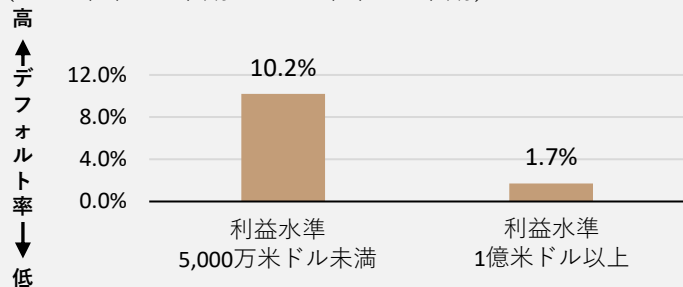
## 大型かつ構造的な追い風の吹くセクターにおけるポートフォリオの構築

### 投資対象ファンドは大型かつ優良な企業への融資案件で高い競争力を有する

- 一般に、事業の規模や利益水準が大きい企業ほど、デフォルト率が低くなる傾向にありますが、一方で、資金調達額も巨額になるため、融資を提供できる貸し手も限られる傾向にあります。
- 投資対象ファンドでは、業界最大級の資金力を背景として、大型企業への融資に注力するとともに、ブラックストーン全体における知見を活用して、構造的な追い風の吹くセクターを特定し、融資を実行しています。

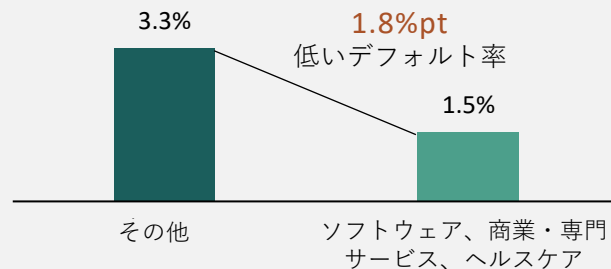
#### 企業の利益水準と平均デフォルト率<sup>(1)</sup>

(2018年第2四半期～2025年第1四半期)



#### セクター別のデフォルト率<sup>(2)</sup>

(2025年3月時点、直近12カ月間)



### 融資事例① Dropbox (2024年における投資対象ファンドのソフトウェア分野での最大融資案件)

#### 企業・案件概要

- Dropboxは米国のクラウドストレージ企業であり、ファイルの保存や同期、共有サービスを提供し、幅広い業界のユーザーやチームの協働を支えています。
- 融資形態：第一抵当優先担保付融資、利率：SOFR+3.75%、保有比率：約0.5%<sup>(3)</sup>
- 2024年12月、ブラックストーンは同社に総額20億米ドルの融資枠を提供し、資金は12億米ドルの自社株買いと運転資金等に充てられました。



#### ブラックストーンの着眼点

- ブラックストーンはテクノロジー分野の知見とDropboxの財務アドバイザーとの関係を活かし、時価総額が90億米ドル超の同社に対し直接融資を提案しました。Dropboxは銀行融資とも比較検討しましたが、資金ニーズに合わせて段階的に借入可能な柔軟性を備え、一部銀行融資も組み合わせたブラックストーン主導の提案が採用され、スピーディ且つ確実な資金調達が実現しました。
- 同社は7億人のユーザーによる粘着性の高いサブスクリプション収益を背景に、年間約10億米ドルの利益を生む成熟企業です。借り入れ負担が小さく設備投資もあまり必要としないため、潤沢なフリーキャッシュフローを創出できる点を評価しました。

### 融資事例② Park Place Technologies (2024年における投資対象ファンドのITサービス分野での最大融資案件)

#### 企業・案件概要

- Park Place Technologiesは、データセンター関連機器のメンテナンス・サービスを中心に、ネットワーク監視や最適化、性能向上に関するソリューションを提供する、業界におけるリーディングカンパニーです。
- 融資形態：第一抵当優先担保付融資<sup>(4)</sup>、利率：SOFR+5.25%、保有比率：約0.9%<sup>(3)</sup>
- 2024年3月、ブラックストーンはプライベート・エクイティ投資会社2社が株主として出資する同社に対し、20億米ドルの資金提供のうち90%を拠出するなど、案件を主導しました。



#### ブラックストーンの着眼点

- ブラックストーンはデータセンター分野に対して深い知見を持つため、当案件の精査を迅速に行い、大規模な融資を速やかに実行することができました。
- グローバルで業界首位の立ち位置やデータセンターへの追い風、設備投資を抑えた高いフリーキャッシュフロー、継続課金型の多様な収益源、LTV<sup>(5)</sup> 50%未満の低いレバレッジ水準を評価しました。

(1) 2018年第2四半期～2025年第1四半期のデータにおける加重平均。「利益水準」はEBITDA(金利・税金・減価償却費控除前利益)を指しています。デフォルト率は投資対象ファンドのものとは異なります。(2) その他のセクターには、KBRA DLDデータに基づき、広告／マーケティング／メディア／コミュニケーション、食品・飲料、化学／ガラス／プラスチックおよび包装、消費財、自動車が含まれます。デフォルト率は投資対象ファンドのものとは異なります。(3) 2025年3月31日時点。(4) 一部ごく僅かな無担保融資が含まれます。(5) Loan To Valueの略で、資産総額に対する負債残高の割合を指します。(出所) Lincoln International Private Market Database、KBRA DLD、Preqin、ブラックストーンからの情報を基に大和アセットマネジメント作成

# スペシャルレポート *Special Report*

※当レポートは、当ファンドの実質的な運用を行うブラックストーンの情報を基に大和アセットマネジメントが作成したものです。 *Private Credit*

当資料は、ブラックストーン・プライベート・クレジット・ファンド(以下「投資対象ファンド」)への投資を提案または勧誘するものではありません。ブラックストーン・インク(以下その関連会社と合わせて「ブラックストーン」)や投資対象ファンドへの言及は、投資対象ファンド、ブラックストーン、その他のブラックストーンの商品への投資の提案や勧誘と解釈されるべきではありません。ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPYファンド(毎月分配型)(以下「当ファンド」)に投資する各投資家は、当ファンドの投資家でしかなく、投資対象ファンドに対する直接的な利益や権利を持つわけではありません。投資対象ファンド、ブラックストーン・プライベート・クレジット・ストラテジーズ・エル・エル・シー(以下「投資対象ファンド投資顧問会社」)、ブラックストーンは、いかなる立場でも、当ファンドのスポンサーまたはマネージャーではなく、当資料の内容に責任を負いません。投資対象ファンド、投資対象ファンド投資顧問会社、ブラックストーンのいずれも本資料を作成しておらず、投資対象ファンド、投資対象ファンド投資顧問会社、ブラックストーンのいずれも資料の内容を承認しておらず、承認する機会を与えられていません。投資対象ファンド、投資対象ファンド投資顧問会社、ブラックストーンはいずれも、ここに記載された情報の公正性、正確性、妥当性、完全性に関して、明示または黙示を問わず、いかなる表明や保証も行っておらず、各社はこれに対するいかなる責任や義務も明示的に否認しています。当ファンドの投資家は、当ファンドが投資対象ファンドの投資家として負担する費用(例えば、投資対象ファンドの資産に基づく管理報酬、設立費用、投資費用、運営費用、および投資対象ファンドの投資家が負担するその他の費用および債務)に加えて、当ファンドの継続的な費用を負担することになります。このような当ファンドの追加費用(手数料を含みます)によって、当ファンドのパフォーマンスは投資対象ファンドより低いものとなります。

## 収益分配金に関する留意事項

- ◆ 分配金は、預貯金の利息とは異なり、投資信託の純資産から支払われますので、分配金が支払われると、その金額相当分、基準価額は下がります。

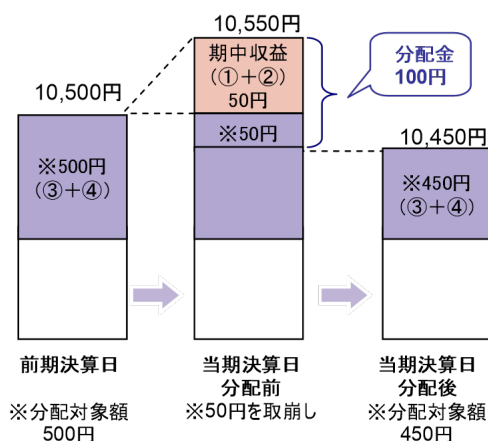
投資信託で分配金が支払われるイメージ



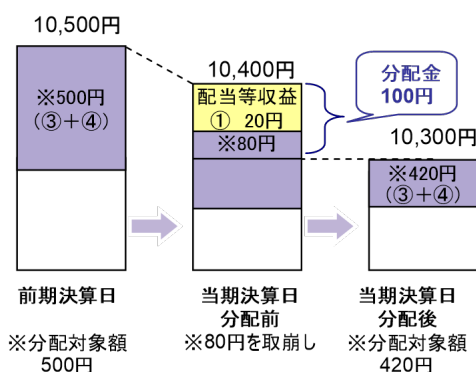
- ◆ 分配金は、計算期間中に発生した収益(経費控除後の配当等収益および評価益を含む売買益)を超えて支払われる場合があります。その場合、当期決算日の基準価額は前期決算日と比べて下落することになります。また、分配金の水準は、必ずしも計算期間におけるファンドの収益率を示すものではありません。

### 計算期間中に発生した収益を超えて支払われる場合

#### 前期決算日から基準価額が上昇した場合



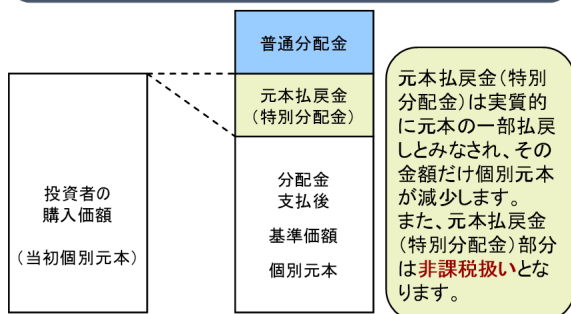
#### 前期決算日から基準価額が下落した場合



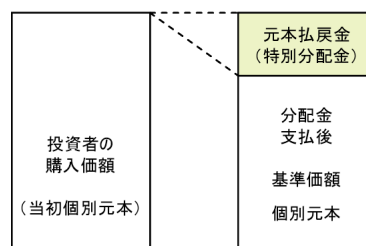
(注) 分配対象額は、①経費控除後の配当等収益および②経費控除後の評価益を含む売買益ならびに③準備積立金および④収益調整金です。分配金は、分配方針に基づき、分配対象額から支払われます。

- ◆ 投資者のファンドの購入価額によっては、分配金の一部または全部が、実質的には元本の一部払戻しに相当する場合があります。ファンド購入後の運用状況により、分配金額より基準価額の値上がりの方が小さかった場合も同様です。

#### 分配金の一部が元本の一部払戻しに相当する場合



#### 分配金の全部が元本の一部払戻しに相当する場合



普通分配金 : 個別元本(投資者のファンドの購入価額)を上回る部分からの分配金です。

元本払戻金 : 個別元本を下回る部分からの分配金です。分配後の投資者の個別元本は、元本払戻金(特別分配金)の(特別分配金)額だけ減少します。

※上記はイメージであり、実際の分配金額や基準価額を示唆するものではありませんのでご注意ください。

## ファンドの目的・特色

### ファンドの目的

- ・主に米国企業に直接融資をするプライベート・クレジット投資を行ない、信託財産の着実な成長と安定した収益の確保をめざします。

### ファンドの特色

- ・主に米国企業に直接融資をするプライベート・クレジット投資を行ないます。
- ・毎月 27 日（休業日の場合翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。
- ・購入申込受付日の翌月 27 日（休業日の場合翌営業日）の基準価額に基づき購入できます。
- ・年 4 回（2 月、5 月、8 月および 11 月）の換金申込期間における換金申込受付日の翌々月 25 日の 10 営業日後の日の基準価額に基づき、換金を請求することができます。

■ 一般社団法人投資信託協会が定める「信用リスク集中回避のための投資制限」（分散投資規制）では、投資対象に支配的な銘柄が存在するまたは存在する可能性が高いファンドを特化型運用ファンドとしています。支配的な銘柄とは、次のいずれかの割合が 10% を超える銘柄をいいます。

- ・投資対象候補銘柄の時価総額に占めるその銘柄の時価総額の割合
- ・運用管理等に用いる指数に占めるその銘柄の構成割合

■ 当ファンドは、実質的な主要投資対象に支配的な銘柄が存在するまたは存在する可能性が高い特化型運用ファンドです。このため、特定の銘柄へ投資が集中することがあり、発行体に経営破綻や経営・財務状況の悪化などが生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

## 投資リスク

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、**投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。**基準価額の主な変動要因は、以下のとおりです。

|                                       |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
|---------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 投資対象資産に関するリスク                         | 投資対象とする外国投資証券によるプライベート・クレジット投資にはリスクがあり、投資の一部または全部を失う可能性があります。                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| ローンに関するリスク                            | 投資対象とする外国投資証券が投資する可能性のあるローンには、第一順位、第二順位、第三順位担保付、または無担保のローンが含まれます。さらに、投資するローンは、通常、投資適格未滿に格付けされるか、または格付けが付与されていません。投資するローンは、信用リスク、流動性リスク、投資適格未滿の商品リスクを含む多くのリスクにさらされます。                                                                                                                                                                                        |
| 投資対象資産に関するリスク<br>優先担保付ローンおよび債券に関するリスク | 投資対象とする外国投資証券によるプライベート・クレジット投資にはリスクがあり、投資の一部または全部を失う可能性があります。<br>ローン、債券投資に伴い投資先企業から差し入れられた担保には、時間の経過とともに価値が減少するか、または完全に消滅するリスク、適時に売却することが困難であるリスクおよび評価が困難であるリスクがあります。また、投資先企業のビジネスの成功度合いと市場の状況に基づいて担保の価値が変動するリスクがあります。状況によっては、担保権が契約上または構造上、他の債権者の請求権に劣後する場合があります。<br>したがって、担保が設定されている場合でも、ローンや債券の元本および利息が条件通りに支払われることが保証されるわけではなく、投資の一部または全部が失われる可能性もあります。 |
| 金利リスク                                 | 投資対象とする外国投資証券は、金利変動リスクにさらされています。一般的な金利変動は、投資対象とする外国投資証券の投資および投資機会に重大なマイナスの影響を与える可能性があり、したがって、投資対象とする外国投資証券の収益率に重大な悪影響を及ぼす可能性があります。さらに、金利が上昇すると、投資対象とする外国投資証券の借入れコストが高くなります。<br>金利上昇の環境においては、変動利付債務に基づく支払いは一般的に増加し、そのような変動利付債務の債務者の多くが、増加した金利コストを支払うことができない可能性が                                                                                              |

|                |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|----------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|                | <p>あります。変動利付債務への投資は、その金利が一般的な市場金利と同程度または同じ速度で上昇しない場合、価値が下落する可能性もあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 流動性リスク         | <p>投資対象とする外国投資証券の組入資産の多くは、上場されておらず、また、流通市場で活発に取引されておらず、転売には法的およびその他の制限がある等、上場証券等に比べて流動性が低い資産です。希望するときに、資産を売却することが困難になる可能性があります。さらに、投資対象とする外国投資証券がそのポートフォリオのすべてまたは一部を迅速に清算する必要がある場合、帳簿上の評価額よりも著しく低い価格でしか売却できずに損失を被る可能性があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 組入資産の評価に関するリスク | <p>投資対象とする外国投資証券の組入資産の多くは、上場されておらず、また、流通市場で活発に取引されているものではありません。それらの資産は市場相場での評価ができないため、米国 1940 年投資会社法の下で、四半期ごとに公正価値で評価されます。公正価値は、投資対象とする外国投資証券の評議会が採用するポリシーに従って決定され、評議会の監視を受けます。また、四半期末以外の時点での評価においては、公正価値に影響を与えるような重大な変化が組入資産に生じているか否かを検討しますが、四半期末の評価プロセスと比較すると限定的なものとなります。</p> <p>公正価値は、非公開有価証券の既存市場が存在した場合に使用されたとあろう価値とは大きく異なる可能性があります。そのため、組入資産を実際に売却する際に適用される価額と大きく異なる場合があります。</p> <p>投資対象とする外国投資証券は、投資しているローンや債券を市場価値、または公正価値で評価されます。評価額が簿価を下回る場合、その差額は評価損として計上されます。評価損は、投資先企業が当該ローンや債券に関する返済義務を履行できないことを示している可能性があります。これにより、将来的に実現損失が発生し、将来の分配に利用できる投資対象とする外国投資証券の収益が減少する可能性があります。また、投資対象とする外国投資証券の評価額の下落は投資対象とする外国投資証券純資産価額の下落要因となります。</p> |
| レバレッジに関するリスク   | <p>投資対象とする外国投資証券は借入れ等を利用して、自己資金を超える資金で投資を行なう可能性があります（レバレッジ）。レバレッジは、リターンを高める可能性を秘めていますが、損失を増加させるリスクもあり、一般的にリターンの変動性（ボラティリティ）を高めることになります。</p> <p>一般的に借入れ等の資金調達にはコストがかかるため、投資対象とする外国投資証券の総コストを高めることになります。また、資金調達環境の変化により、投資対象とする外国投資証券の資金調達が困難になったり、そのため投資している資産を不利な条件で売却せざるを得なくなるなどのリスクもあります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 為替変動リスク        | <p>外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。当ファンドは、組入外国投資証券に対して為替ヘッジを行なわないので、基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けます。</p> <p>投資対象とする外国投資証券は、米ドル建てで資産を保有し、および借入れを実行していますが、それとは別の外国通貨建てで資産を取得し、または借入れを実行することがあるため、為替リスクにさらされます。外国為替レートが変動した結果、投資対象とする外国投資証券の負債の価額および費用が上昇し、または投資対象とする外国投資証券の資産の価額および収入が下落することがあり、その結果、投資対象とする外国投資証券の純資産価額に悪影響が生じる可能性があります。投資対象とする外国投資証券は、為替リスクの軽減を目指して、為替ヘッジ取引を行なうことがありますが、為替リスクを完全に排除することはできません。また、為替ヘッジ取引には追加的な費用が伴います。</p>                                                                                                                         |
| カントリー・リスク      | <p>投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となる場合があります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |

※基準価額の変動要因は、上記に限定されるものではありません。

#### その他の留意点

- 当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第 37 条の 6 の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。
- 当ファンドは、流動性の低い資産を主な投資対象とするため換金性に欠ける場合があります。これにより、基準価額にマイナスの影響を及ぼす可能性や、換金の申込みの受付が中止となる可能性、換金代金のお支払いが遅延する可能性があります。
- 当ファンドの日々の基準価額の算出において、投資対象とする外国投資証券の評価に際し、原則として基準価額算出日に知り得る直近の評価額を参照します。原則として、投資対象とする外国投資証券の評価額は日次で更新されず、月次での更新となるため、投資対象とする外国投資証券の評価額の更新時以外における当ファンドの日々の基準価額の変動は為替変動が主な要因となります。
- 当ファンドは、忠実義務に基づき、投資する投資信託証券について、その価格が入手できない、または入手した価格で評価すべきでないと考えられる場合には、適正と判断する直近の日の価格など当社が時価と認める価格で評価することがあります。

#### ＜換金に関する留意点＞

投資対象とする外国投資証券は、四半期ごとに投資対象とする外国投資証券の換金を受け付けていますが、投資対象とする外国投資証券の評議会には、その裁量により、換金の条件の変更、または換金の一時停止を決定する権限があります。その場合、当ファンドは投資対象とする外国投資証券を適時に処分できなくなる可能性があります。また、当ファンドが外国投資証券の換金を申し込んだ一部のみ換金が行なわれる可能性があります。委託会社は、適正とみなす場合（投資対象とする外国投資証券の換金制限により、投資対象とする外国投資証券の換金が制限され、または妨げられる場合が含まれます。）には、当ファンドの換金請求の数量を委託会社が定める受益証券口数もしくは金額に制限し、または当該換金請求の受付を停止することができます。委託会社が換金請求の数量を制限し、または受益証券の換金を停止した場合、受益者は、自らの受益証券の換金を受けることはできません。また、当該事由が解消しない場合等には換金請求の受付を停止する期間が長期化する場合があります。

## ファンドの費用

### 投資者が直接的に負担する費用

|               | 料 率 等                                    | 費 用 の 内 容                                                                                               |
|---------------|------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 購 入 時 手 数 料   | 販売会社が別に定める率<br>(上限) <u>3.3% (税抜3.0%)</u> | 購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引<br>執行等の対価です。                                                              |
| 信 託 財 産 留 保 額 | <u>0.3%</u>                              | 換金に伴い必要となる費用等を賄うため、換金代金から控除<br>され、信託財産に繰入れられる額。換金申込受付日の翌々月25日<br>の10営業日後の日の基準価額に対して左記の率を乗じて得た<br>額とします。 |

### 投資者が信託財産で間接的に負担する費用

|                                  | 料 率 等                                                                 | 費 用 の 内 容                                                                         |
|----------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------|
| 運 用 管 理 費 用<br>( 信 託 報 酬 )       | 年率1.419%<br>(税抜1.29%)                                                 | 運用管理費用の総額は、日々の信託財産の純資産総額に対して<br>左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎日計上<br>され日々の基準価額に反映されます。 |
| 配 分<br>(税抜)<br>(注 1)             | 委託会社                                                                  | 年率0.45%                                                                           |
|                                  | 販売会社                                                                  | 年率0.80%                                                                           |
|                                  | 受託会社                                                                  | 年率0.04%                                                                           |
| 投資対象とする<br>投資信託証券<br>(目論見書作成時点)  | 年率1.25%程度+成功報酬                                                        | 投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。                                                            |
| 実質的に負担する<br>運用管理費用<br>(目論見書作成時点) | <u>年率2.669% (税込) 程度+成功報酬</u><br>※成功報酬について、くわしくは、「投資対象ファンドの概要」をご参照下さい。 |                                                                                   |
| そ の 他 の 費 用・<br>手 数 料            | (注 2)                                                                 | 監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプ<br>ション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等<br>を信託財産でご負担いただきます。 |

(注1)「運用管理費用の配分」には、別途消費税率を乗じた額がかかります。

(注2)「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。

※運用管理費用の信託財産からの支払いは、毎計算期末または信託終了時に行なわれます。

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

## お申込みメモ

|                    |                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 購入単位               | 500 万円以上 1 円単位または 500 万口以上 1 口単位                                                                                                                                                                                                                     |
| 購入価額               | ① 当初申込期間 1 万口当たり 1 万円<br>② 継続申込期間 購入申込受付日の翌月 27 日（休業日の場合翌営業日）の基準価額（1 万口当たり）                                                                                                                                                                          |
| 購入代金               | 販売会社が定める期日までにお支払い下さい。                                                                                                                                                                                                                                |
| 換金単位               | 最低単位を 1 口単位として販売会社が定める単位                                                                                                                                                                                                                             |
| 換金価額               | 換金申込受付日の翌々月 25 日の 10 営業日後の日の基準価額から信託財産留保額を控除した価額（1 万口当たり）                                                                                                                                                                                            |
| 換金代金               | 原則として換金申込受付日の翌々月 25 日の 10 営業日後の日から起算して 5 営業日目からお支払いします。<br>※なお、投資対象資産の売却や売却代金の入金が遅延したとき等は、換金代金の支払いを延期する場合があります。                                                                                                                                      |
| 申込締切時間             | ① 当初申込期間 当初申込期間最終日の販売会社所定の時間まで<br>（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）<br>② 継続申込期間 原則として、午後 3 時 30 分まで<br>（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）<br>なお、販売会社によっては異なる場合がありますので、くわしくは販売会社にお問合わせ下さい。                                                                                     |
| 換金制限               | 信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。<br>投資対象とする外国投資証券には、各四半期において、換金上限として前四半期末時点の発行済み投資証券口数または純資産総額の 5%（四半期毎に評価されます。）が定められています。投資対象とする外国投資証券の売却注文が不成立または一部不成立となることで投資資産の資金化が困難な場合は、換金申込の受付けを中止すること、すでに受け付けた換金申込の全部を取り消すこと、または換金申込金額の一部の換金となる場合があります。 |
| 購入・換金申込受付の中止および取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情が発生した場合には、購入、換金の申込みの受付けを中止すること、すでに受け付けた購入、換金の申込みを取消すことがあります。<br>また、換金において、組入外国投資証券の売却注文の不成立等により投資対象資産の資金化が困難な場合は、換金申込みの受付けを中止することおよびすでに受け付けた換金の申込みの受付けの全部または一部を取消す場合があります。                                     |
| 繰上償還               | ◎ 委託会社は、主要投資対象とする組入外国投資証券が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。<br>◎ 次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還できます。<br>・受益権の口数が 30 億口を下ることとなった場合<br>・信託契約を解約することが受益者のため有利であると認めるとき<br>・やむを得ない事情が発生したとき                  |
| 収益分配               | 年 12 回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。<br>※第 1～第 4 計算期末には、収益の分配は行ないません。<br>（注）当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。<br>なお、お取扱い可能なコースおよびコース名については異なる場合がありますので、販売会社にお問合わせ下さい。                                                                                  |
| 課税関係               | 課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。<br>公募株式投資信託は税法上、一定の要件を満たした場合に NISA（少額投資非課税制度）の適用対象となります。<br>当ファンドは、NISA の対象ではありません。                                                                                                                       |

※詳しくは「投資信託説明書（交付目論見書）」をご覧ください。

※税法が改正された場合等には変更される場合があります。

設定・運用:

**大和アセットマネジメント**

Daiwa Asset Management

商号等

大和アセットマネジメント株式会社  
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会  
一般社団法人日本投資顧問業協会  
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

※詳しくは「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

**Daiwa Asset Management**

## ファンドに関するお電話でのお問い合わせ

☎0120-106212

(受付時間：営業日 9：00～17：00)

※お客様のお取引状況・その他口座内容に関するご照会はお取引先の銀行、証券会社等の金融機関にお問い合わせください。

URL <https://www.daiwa-am.co.jp/>

### 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和アセットマネジメント株式会社が作成したものです。
- 当ファンドのお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。記載する投資判断は現時点のものであり、将来の市況環境の変動等を保証するものではありません。
- 当資料中で個別企業名が記載されている場合、あくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。
- 分配金は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。

ブラックストーン・プライベート・クレジット・JPYファンド（毎月分配型）

| 販売会社名（業態別、50音順）<br>（金融商品取引業者名） |          | 登録番号            | 加入協会    |                         |                         |                            |
|--------------------------------|----------|-----------------|---------|-------------------------|-------------------------|----------------------------|
|                                |          |                 | 日本証券業協会 | 一般社団法人<br>金融先物<br>取引業協会 | 一般社団法人<br>日本投資<br>顧問業協会 | 一般社団法人<br>第二種金融商<br>品取引業協会 |
| 大和証券株式会社                       | 金融商品取引業者 | 関東財務局長(金商)第108号 | ○       | ○                       | ○                       | ○                          |

上記の販売会社は今後変更となる場合があります。また、販売会社によって、新規のご購入の取扱いを行っていない場合や、お申込み方法・条件等が異なります。くわしくは、販売会社にお問合わせ下さい。